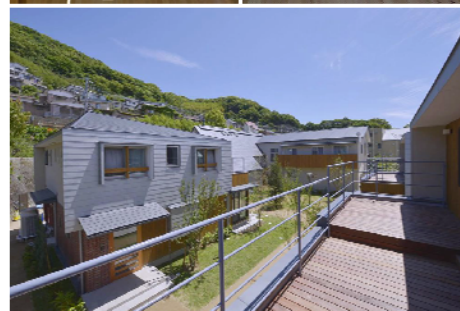


“well beingな” 児童養育の場 児童養護施設『マリア園』移転改築設計趣旨  
藤木隆男建築研究所

- 施設移転改築の計画／建設対象敷地は、長崎港を一望し緩やかに北下がり傾斜する住宅地にある、『旧浪ノ平小学校』跡地高台約4,000㎡の見晴らしの良い平坦地である。  
計画は、『新しい社会的養育ビジョン』を踏まえた、定員46名（内地域小規模6名含）、家庭的な住空間の「小規模ユニットケア児童養護施設」建築群と、地域・子育て福祉の核である「児童家庭支援センター」をもつ事務棟建築など合わせて5棟で構成されている。
- 自然石積み擁壁上の計画敷地山側；南西寄り／施設正面に「事務棟」を配置し、“地域開放型施設”としてのアクセスの利便性を図る。  
また、敷地の奥；北～東側の港を眺望する開放的なエリアに“小規模ユニット型児童園舎”（3棟5ユニット）を配置、施設内児童の生活の落ち着きと安心を確保する。登下校など日常の出入りは、東側の「プール坂」に設けられた出入口／門から行われる。洗濯室・倉庫棟を含む5つの建物群は、この「見晴らしのよい高台に周辺住宅地に馴染んだ『中庭を囲む低層の集落』の様相」を作り出す。
- 事務棟は、1階に施設／法人の各事務・応接・相談・会議・休憩スペースのほか、園全体の会食や集会などが可能で地域活動に開かれた地域交流スペース（調理室付）を設ける。2階には親子訓練室、ショートステイ／緊急一時保護室、相談／心理療法室など、「児童家庭支援センター」としての機能を備え、地域の子育て支援の専門的で包括的な核となる施設を目指す。2階宿泊／児家セン施設へは外階段による直接アクセスを可能にする。
- 児童棟は、定員8名／独立性の高い住宅的なスケールの小規模ケアユニット；床面積約174㎡×5単位からなる。うち4つは2ユニットの（スタッフ室を通じた）連結型×2棟、残りの1ユニットは独立型である。  
各児童棟1階のLDK+和室は中庭に大きく開かれ、2階の児童居室は7.5㎡（4.5畳）程度の個室2室、12.4㎡（7.5畳）程度の（個室化可能な）2人部屋2室からなり、中庭に面した広いルーフテラス（物干しスペース）を持つ。児童棟は、豊かな緑化環境の中、日当たりや風通しを確保し、自然素材を多用したサステナブルで居心地の良い住空間を目指している。
- 当該敷地は、市の「伝統的建造物群保存地区B」内にあるため、全体の建物形状や色彩など歴史的な周辺地域景観との調和を図り、“坂の町”長崎・南山手の地域特性／『場所性』を意識した建築物群として計画された。ここに移転改築される新園舎と、「保存利活用される赤れんがの旧園舎」のそれぞれのもつ建築景観が、南山手の個性ある街づくりに長期的に寄与することができればと願っている。
- ひと時を親と離れてここで暮らす生育期の子どもたちにとって、美しく楽しい街や地域／学校、親身に接してくれる大人たち／施設スタッフ、清潔なハウスキープとおいしい食事など、彼らに用意されるべき生活環境の課題は多い。建築は、それらの高い水準での充足、つまり“well beingな生活空間／環境をつくる”基礎となるはずである。



児童養護施設『マリア園』移転改築  
2019.7



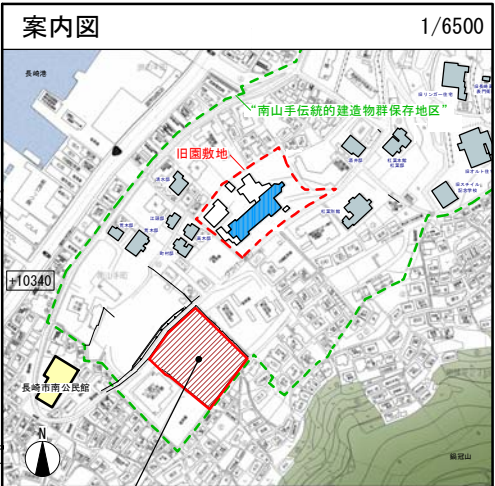
旧マリア園



撮影：北田英治



平面図 1/400



住所：長崎県長崎市南山手町16-33

建築概要	
施主	社会福祉法人南山手会
施工	あけぼの建設株式会社/有限会社松大産業
敷地面積	3980.97㎡
地域地区	第1種住居地域・準防火地域
	宅地造成工事規制区域
	伝統的建造物群保存地区
接道	景観形成重点地区(南山手B区域)
	北西側(グラバー通り)幅員4.6~5.2m
	北東側(プール坂)：42条2項道路扱い 南東側：幅員2.1~2.2m
用途	児童福祉施設等 (児童養護施設・児童家庭支援センター)
構造規模	木造地上2階 (事務棟：準耐火 / 児童棟：その他建築物)
最高高さ	8.884m (十字架9.984m)
建築面積	949.65㎡
建ぺい率	23.85% (許容70%)
延床面積	1495.05㎡
容積対象面積	1475.20㎡
容積率	37.05% (許容184%)